

第1問 【ギリシア人の植民活動】

問題：

前8世紀以降、ギリシア人は地中海や黒海沿岸に植民市を建設したが、その活動について正しいものを選び。

選択肢：

- A. ギリシア人は植民活動で新たなポリスを形成したが、文字通り、母子に支配される植民地であった。
- B. コリントやアテネは本土において多くのポリスと同盟を結んでいたため、植民市をもたなかった。
- C. 植民活動は人口増加や土地不足が主因で、母都市との宗教的・経済的なつながりを持った。
- D. 植民市はその多くは黒海・東地中海沿岸に集中し、エジプトや西地中海には拡大しなかった。

正解： C

解説：

- C(正) 植民活動は人口増加・耕地不足によるもので、母都市とのつながりを保った。
 - A: 植民市は独立したポリスであり、母市との関係はあるものの、支配されていたわけではなかった。
 - B: コリントはシチリア島のシラクサ、アテネは小アジアのミレトスを植民市として建設した。
 - D: 植民市は地中海全域に展開し、エジプトや西地中海にも広がった。
-

第2問 【アテネの政治制度】

問題：

アテネ民主政の成立について正しいものを選び。

選択肢：

- A. ドラコンは平民に参政権を与えたことで、直接民主制の父と称された。
- B. ペイシストラトスは暴君として平民を弾圧し、貴族政を復活させた。
- C. クレイステネスは部族制を改革し、10部族制と陶片追放制度を導入した。
- D. ペリクレスはサラミスの海戦に活躍し、その後民主制を完成させた。

正解： C

解説：

- C(正) クレイステネスは10部族制・陶片追放などで民主政の基盤を整備した。
- A: ドラコンは成文法を整備したが、平民の参政権拡大にはつながらなかった。
- B: ペイシストラトスは僭主だが、公共事業などで平民の支持を得た。
- D: サラミスの海戦で活躍したのはテミстокレス。ペリクレスは直接民主政を完成させた人物で、ペロ

ポンソス戦争中に病死している。

第3問【ペロポネソス戦争】

問題：

ペロポネソス戦争に関して正しい記述を選べ。

選択肢：

- A. アテネはスパルタと同盟してペルシア帝国の侵攻に対抗した戦争である。
- B. スパルタはデロス同盟を主導し、アテネとの対立を深めて戦争に至った。
- C. アテネは民会中心の民主政の弱体化が敗北の要因の一つとなった。
- D. 結果としてスパルタは海上覇権を獲得し、ギリシア世界を統一した。

正解：C

解説：

- C(正) アテネは民会中心の政策に混乱が生じ、戦争運営の失敗もあって敗北した。
 - A: これはペルシア戦争の内容であり、本戦争とは無関係。
 - B: デロス同盟を主導したのはアテネであり、スパルタはペロポネソス同盟を主導。
 - D: スパルタは一時的な覇権を得たが、ギリシア統一には至らなかった。
-

第4問【ヘレニズム文化】

問題：

ヘレニズム文化について正しい記述を選べ。

選択肢：

- A. エジプトのアレクサンドリアには学術よりも軍事的な拠点が置かれた。
- B. ムセイオンでは自然科学が研究され、エラステネスは地球の周囲を測定した。
- C. ヘレニズム文化はアテネやスパルタを中心に発展したギリシア文化の発展系である。
- D. ゼノンは快楽を重視するストア派哲学を提唱した。

正解：B

解説：

- B(正) エラステネスはアレクサンドリアのムセイオンで地球の周囲を測定した。
- A: アレクサンドリアのムセイオンは学術研究機関であり、軍事とは関係ない。
- C: ヘレニズム文化の中心は小アジア・エジプトなど新都市で、ギリシア本土ではない。
- D: ストア派哲学は禁欲主義を重視し、快楽重視はエピクロス派の特徴。

第5問【ローマ共和政と法制度】

問題:

共和政ローマにおける法制度について正しいものを選び。

選択肢:

- A. 十二表法は元老院がパトリキにだけ適用した慣習法の体系である。
- B. リキニウス＝セクステウス法はプレブスにコンスルへの被選挙権を認めた。
- C. ホルテンシウス法はパトリキの決議を平民会に優越させる内容である。
- D. ローマ法大全はグラックス兄弟により、元老院を改革する目的で編纂された。

正解: B

解説:

- B(正)リキニウス法はコンスルの一人を平民から選ぶことを可能とした。
 - A: 十二表法は平民の要望で成文化された慣習法で、パトリキ限定ではない。
 - C: ホルテンシウス法は平民会の決議を元老院の承諾なしに全ローマ市民に適用可能とした。
 - D: ローマ法大全は東ローマ帝国のユスティニアヌス帝時代に編纂されたものである。
-

第6問【女性と奴隷】

問題:

古代ギリシアおよびローマ社会における女性と奴隷について正しい記述を選び。

選択肢:

- A. ギリシアの市民女性は政治参加が可能であり、アテネの民会に出席できた。
- B. スパルタでは女性が土地を相続できることもあり、比較的地位が高かった。
- C. ローマの奴隷は一律に市民権を与えられており、自由市民と同等の権利を持った。
- D. ローマ文化において、アリストファネスの作品などに女性解放の表現が含まれていた。

正解: B

解説:

- B(正)スパルタでは戦士階級の減少などの影響で、女性が財産を相続する例もあった。
 - A: アテネの女性は政治には一切参加できず、民会にも出席できなかった。
 - C: 奴隷は基本的に財産とされ、市民権は与えられなかった。
 - D: 『女の平和』『女の議会』で有名な喜劇作家アリストファネスはギリシア文化人である。
-

第7問【ポエニ戦争～三頭政治の流れ】

問題：

次のローマ史に関する記述のうち、正しいものを一つ選べ。

選択肢：

- A. 第1回ポエニ戦争でローマはザマの戦いに勝利し、ヒスパニアを獲得して属州とした。
- B. グラックス兄弟はラティフンディア制の強化を図り、護民官として元老院の権威を支援した。
- C. マリウスは兵制改革を行って無産市民を傭兵化し、私兵化の道を開いた。
- D. 第1回三頭政治ではカエサルがポンペイウスと敵対し、内乱の火蓋を切って落とした。

正解：C

解説：

C…正。マリウスは徴兵制を改めて無産市民にも軍役を認め、兵士の忠誠が将軍個人に向かう契機となった。

A:ザマの戦いは第2回ポエニ戦争末期で、スキピオがハンニバルを破った。ヒスパニアの属州化も第2回戦後である。

B:グラックス兄弟はラティフンディア制による貧富の格差是正を目指し、土地法改正などを行った。

D:第1回三頭政治ではカエサル・クラッスス・ポンペイウスが協調し、当初は対立していない。

第8問【キリスト教とローマ帝国】

問題：

古代ローマにおけるキリスト教の展開について、正しいものを選べ。

選択肢：

- A. ディオクレティアヌス帝はミラノ勅令を出し、キリスト教を公認した。
- B. コンスタンティヌス帝はアリウス派が正統とされ、アタナシウス派は異端とされた。
- C. ユリアヌス帝はミトラ教を崇拝、キリスト教徒から背教者とされた。
- D. テオドシウス帝はキリスト教を容認しつつ、多神教との平和共存を目指した。

正解：C

解説：

C(正)ユリアヌス帝はギリシア古典文化に陶醉し、ミトラ教を崇拝、キリスト教を軽んじた。

A:ミラノ勅令を出したのはコンスタンティヌス帝であり、ディオクレティアヌス帝は弾圧側。

B:ニケーア公会議において、アタナシウス派が正統とされ、アリウス派が異端とされた。

D:テオドシウス帝はキリスト教を国教とし、異教を禁止した。

第9問【ゲルマン人の大移動と西ローマ滅亡】

問題:

ゲルマン人の大移動と西ローマ帝国滅亡について、正しい記述を選べ。

選択肢:

- A. フン人の西進をきっかけにヴァンダル人がパンノニア地方に定住した。
- B. 西ゴート人はローマ帝国と戦いながら、バルカン半島に王国を建国した。
- C. 476年、西ローマ皇帝がゲルマン傭兵隊長オドアケルに廃位され帝国は滅亡した。
- D. アッティラ王は、カタラウヌムの戦い後に、ローマ市を征服し、略奪行為を行った。

正解: C

解説:

- C(正) 476年、オドアケルによりロムルス・アウグストゥルスが退位させられた。
 - A: ヴァンダル人は北アフリカへ移動し、カルタゴを中心に建国した。
 - B: 西ゴート人はバルカン半島～ガリア～イベリアに移動、西ローマ内で王国建設。
 - D: アッティラはローマ市を攻撃せず、ローマ教皇の説得で撤退した。
-

第10問【キリスト教の成立と国教化】

問題:

キリスト教の成立から国教化までの過程について、正しいものを一つ選べ。

選択肢:

- A. ネロ帝による迫害以後、キリスト教徒はカタコンベに隠れながら信仰を維持した。
- B. アウグスティヌスは『神の国』を著し、ニケーア公会議での異端認定を主導した。
- C. 新約聖書はペテロを中心とした教父によって、紀元前1世紀にまとめられた。
- D. ヒエロニムスは新約聖書をヘブライ語からラテン語に翻訳した。

正解: A

解説

- A: ネロ帝などの迫害下、初期キリスト教徒は地下墓地(カタコンベ)で信仰を守った。
- B: アウグスティヌスはニケーア公会議(325年)には関与しておらず、『神の国』はその後の神学書である。
- C: 新約聖書は紀元後1世紀末までに成立し、教父ではなく複数の使徒らによって書かれた。

ミラノ勅令(313年)は信仰の自由を保障したが、国教化はテオドシウス帝による。

✕D:4世紀末～5世紀にかけて活躍したヒエロニムスは、コイネーで書かれた新約聖書をラテン語に翻訳された。